

平成30年度第16回旭川医科大学実験動物慰霊式にあたり、動物実験:実施者を代表し、医学研究のために犠牲となった多くの動物の御霊に対し、慰霊の言葉を述べさせていただきます。

平成29年度、本学動物実験施設を介して、実験に供された動物は、マウス、ラット、チャイニーズ・ハムスター、ゴールデン・ハムスター、ウサギ、ブタ、イヌ、ネコ 合計 8種 17627 頭を数えました。これら多くの実験動物の犠牲により、基礎医学・臨床医学の分野において貴重な研究成果が得られ、数多くの学会発表、論文発表が行われ、動物実験により学位を取得した者も数多くおります。

医学研究は、生命のしくみを解き明かす基礎研究を通し、それらの知見をヒトへ還元することで、様々な疾患の病態解明、治療法の開発を行います。この医学・医療の進歩は、その多くが実験動物の尊い犠牲の上に成し遂げられて参りました。体の詳細な構造やはたらき、様々な分子の機能の追求は動物実験なしには成し遂げられないものでした。また、日常的に臨床使用される薬、診断・治療機器の開発、新たな診断・治療手技の開発等、今日我々が享受している医学・医療の進歩は、実験動物の尊い犠牲の上に築かれた事を、心に止めなければなりません。我々は、かけがえのない命を頂いた多くの動物の御霊に対し、哀悼の念を忘れることがあってはなりません。

今日、分子生物学、情報工学等の著しい進歩により、実験動物に依存しない生命科学研究が、常に模索されております。その一方、高度に有機的に統合された生命体の理解や、より安全で有効な診断・治療法の開発の為には、最終的には、どうしても、動物実験に依存せざるを得ません。我々は、尊い動物の命を犠牲にして実験を行うに当たっては、常に、倫理性に鑑み、代替モデルを十分に検討し、犠牲となる動物の数を最小限とし、動物のストレスや苦痛は最小限度に軽減するべく、検証しなくてはなりません。また、これまで以上に実験動物の犠牲の上で成り立った研究の成果は、広く社会に還元し、人類の福祉に貢献することで、尊い動物達の犠牲に答える努力を払わなければならないと考えます。

最後に、本慰霊式にあたり、医学研究のために犠牲となった多くの動物たちの御霊に対し、感謝と哀悼の意を表し、そのご冥福をお祈りするとともに、実験動物の犠牲の上に、我々の医学・医療が成り立っている事を改めて認識することを誓い、慰霊の言葉と致します。

平成30年9月20日

旭川医科大学医学部 解剖学講座

吉田成孝